

令和5年度 第1回森町総合教育会議 議事録

1 日 時 令和5年6月30日(金) 午前10時30分～午後0時00分

2 場 所 森町総合体育館 研修室

3 出席者 森町長 太田 康雄
森町教育委員会
教育長 野口 和英
委 員 村松 昌吾
委 員 鈴木 眞子
委 員 早馬 保男
委 員 佐藤 佐和子

(説明出席者)

学校教育課長	塩澤 由記弥
学校教育課長補佐	土屋 智也乃
学校管理係長	井口 寧了
庶務係長	鈴木 真央
社会教育課長	三澤 由紀子
社会教育課長補佐	磯谷 博俊
健康こども課長	朝比奈 礼子
健康こども課長補佐	川島 直子
幼稚園保育園係長	米倉 雅俊
療育コーディネーター	山下 マスミ

4 議 事 (1) 令和5年度 森町の教育について
(2) 幼児教育の適正規模について
(3) 中学校部活動の地域移行について

5 傍聴人 1人

6 議事の概要

学校教育課長 開会

町長 本日は第1回総合教育会議にお集まりいただき、また日頃から森町の教育行政を支えていただき重ねて御礼申し上げます。

最近の町の状況として、一番大きな出来事は6月2日の台風2号であり、昨年の台風15号に匹敵するような規模であった。今回も想定より雨量が多く、線状降水帯の発生に伴うもので、累積雨量が大河内で517ミリ、最大時間雨量が三倉で67ミリと、累積雨量では台風15号を上回った。被害の状況については、同報無線やホームページ等でも伝えているが、現在までに確認されている

件数として床下浸水2件、住家災害が2件、県道、町道併せた道路の被災が89ヶ所、県、町の管理を併せた河川の被災が76ヶ所、農業関係の被災が24ヶ所、林道や治山関係の被災が42ヶ所である。学校施設等の教育関係については、県道の通行止めで児童生徒の通学に少し不便があった以外は大きな被災がなく良かった。被災直後からそれぞれ復旧に努めているが、大きな災害であるため今ある予算では対応できないことから、補正予算を編成した。前回の台風15号の復旧もまだ本復旧にかからない内に同じようなところが被災したため、工事には相当期間を要すると想定される。引き続き御不便をおかけするがよろしく願いしたい。

また6月定例会で補正予算を認めていただいたが、その中で社会教育課関連の事業が2つあるため紹介する。1つは今年、静岡県が東アジア文化都市の「日本の都市」として選定されており、そのことから県と県内各市町が文化事業を行うよう推進をしている。森町では、「東アジア文化都市2023 杭迫柏樹展覧会事業」として、中国との関係が深い作品を展示する展覧会を9月16日～18日に開催する。2つ目は、「藤江勝太郎氏顕彰事業」ということで、城下に生まれ、台湾や中国へ渡航しウーロン茶製法を学び、帰国後に広く日本へ伝えた藤江氏の功績を顕彰するための講演会を開催する事業を補正予算としてお認めいただいた。今後、9月の杭迫柏樹氏の展覧会、そして10月に藤江勝太郎氏顕彰講演会に向けて準備を進めているところである。詳細については決まり次第、教育委員会や町民の皆さんにお知らせしていく。

本日は、令和5年度の森町の教育についてと、幼児教育における適正規模について及び中学校部活動の地域移行についてをそれぞれ担当課から説明し、皆さんと意見交換をしたいのでよろしく願います。

教育長

本日は、天方幼稚園、森幼稚園への訪問に引き続き、第1回森町総合教育会議にお集まりいただき感謝を申し上げます。この総合教育会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正により、平成27年度から開催されるようになった。町長と教育委員会が教育施策、教育課題について協議・調整をする大切な場である。

さて、森町の教育では健康こども課、学校教育課、社会教育課の3つの課が互いに連携を図りながら進めているが、コロナが5類へ移行したこともあり、学校や幼稚園では日常が戻り順調な教育活動が行われている。また社会教育課所掌の事業も従前の形に戻りつつあり、こちらも順調に進められている。ただし喫緊の課題として、少子化に伴う問題や不登校児童生徒の増加、部活動の地域移行等が挙げられる。この後、各課から説明するが、ぜひ様々な角度から御協議いただきますようお願いする。

学校教育課長

議事進行を町長に願います。

町長

議事(1)令和5年度森町の教育について、事務局から説明をお願いする。

健康こども課長

資料のとおり説明。

学校教育課長

資料のとおり説明。

社会教育課長

資料のとおり説明。

町長

健康こども課、学校教育課、社会教育課からの説明について質問等あるか。

鈴木委員

教育委員訪問で幼稚園を訪問した際、ALTと一緒に活動していた子供たちが

とても楽しそうな様子であった。小中学校でも同様にどこの学校でも楽しく教育をしていただいております。またコミュニティスクールや地域学校協働活動推進員がいろいろ手助けをしていただけていることがとてもありがたい。推進員の負担にならないように、でも手が差し伸べられるよううまく続けてほしい。

早馬委員 コロナが5類になったことで、北海道森町との交流や広島訪問が再開される。私の子供も訪問したり受け入れをしたりし、とても有意義な経験であった。継続できることは今後も継続していくことが大切なのではないかと感じた。

佐藤委員 外国語教育で英検の会場を新たに設け、希望する生徒に受検の機会を与えていただけて感謝している。また社会教育課の「夏休み学習寺子屋」が初めて開催されるということで、元教員やボランティアの方に基礎学力の補充として学習教室を開催してもらえるのはすごくいい企画だと思った。ぜひ多くのお子さんが参加できるような寺子屋になるといい。

村松委員 先程の町長の説明にもあったが、台風の被害が森町にも多くありとても大変であったと思う。私は教育委員としての立場から、教育施設や子供たちの様子はどうだったかという視点で現在学校訪問をしている。非常に良かったことは、教育施設に大きな被害がなかったこと。また、子供たちは元気で明るさを振りまいてくれており、エネルギーを感じた。今日訪問した天方幼稚園では天気のことをみんなで話しており、やはりあんな小さな子供でも三倉川の氾濫は印象的であったのだろうと思う。行政は大変だと思うが、やはり子供たちが明るく育っていくために、この森の教育にある計画を確実に進めていただきたい。

町長 続いて議事(2)幼児教育における適正規模について、事務局から説明をお願いします。

山下療育コーディネーター 資料のとおり説明。

健康こども課長 資料のとおり説明。

町長 健康こども課からの説明について質問等あるか。

村松委員 資料にある園児数の推移を見て、幼稚園の園児数がこんなに少ないんだということに驚いた。実際令和5年度から飯田地区に新たな保育園ができ、その結果でこのような数字になっているかと思う。今は非常に保育園を希望する方が多く、そうすると幼稚園の運営がこの先もできるのか。仕方がないが、人数が少なくてもやれるんだではなくて、やはり子供を預かる以上はきちんと教育をしなくてはいけない。そういった意味で最低基準を設けることは良いと思う。

早馬委員 「幼児期は、生きる力を育むため体験や経験に裏打ちされる極めて特性のある時期」ということを改めて考えると、天方幼稚園や一宮幼稚園は園児数が少なく、でも先生方の努力もありすごく良い園に見える。しかし、集団での活動というのを重要視するとある程度の人数は必要。最低基準というものは今までなかったと思うが、それを今作る必要があるのではないかと感じた。地域によっては小学校、中学校がなくなり、さらに幼稚園もなくなるというのは寂しい部分もあるが、今の子供の人数を見て教育的に考えると集団での生きる力を大切に考えていく必要があり、最低基準を設けることはいいと思う。

鈴木委員 小学校に向けて、子供同士関わり合っていくことがとても大事であるという

ことが本日訪問した中でも感じたことであるので、最低基準を設けることは賛成する。

佐藤委員 幼稚園の適正規模が15人～30人が望ましい中で、令和6年度の見込みが町全体で年少19人、年中30人、年長が50人ということで、適正規模を維持するのがやっとなというのが資料を見て分かった。最低基準を設けることは必要だと思うが、1学級5人というのは少ないのではないかと。地域のことや町全体を考えこの数字を出したと思うが、いろいろな園を見てもやはり10人くらいは必要なのではないかと思った。

教育長 皆さんがおっしゃった御意見は、実際に幼稚園の参観を通してお感じになったことだと思うので、受け止めたいと思う。

町長 今日ここで結論を出すということではないので、いただいた御意見を参考にしながら検討を進めていくことにする。

次に(3)中学校部活動の地域移行について、事務局から説明をお願いします。

学校教育課長 資料のとおり説明。

町長 学校教育課からの説明について質問等あるか。

村松委員 森町であれば、中学校は2校なので合同で行うことは可能かと思う。現状人数が少ないから部活動の種類も少なくなっているとも考えられるが、実は他にもやりたいスポーツがあって在籍していない場合もあるのではないかと。そういう事であれば、例えば卓球など森町のクラブとして土日どこかでやるなども考えられる。そのためには指導者が必要という問題もあるが、そこは一生懸命探すしかない。一方で現在の状況が「森の夢づくり大学」での活動と切り離されていると感じる。掛川市の例のように健康維持や増進の観点から一緒に活動しながら触れあうこともできるのではないかと。競技スポーツということもあるが、勝利至上主義ではなく、関わりや触れあいを目的としていけば良いと思う。合同部活もスパンを広げて、夢づくり大学とコラボしながらそこにいる指導者に見てもらえることもあるのではと思うので、そのような視点で今あるものを生かしてやっていただけたら良い。

教育長 部活動については先程説明があったが、近隣市の状況を踏まえて、大体課題は同じで、やはり指導者をいかに掘り起こすかというところが大きいかなと思っている。また皆様にも今後御協力いただければと思う。

町長 議事については、以上で終了となる。

学校教育課長 閉会